

令和 4 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	7 2		学校名	県立下館第二高等学校				課 程		全日制		学校長名		宮田 俊晴				
教 頭 名	日向 久											事務長名		富田 英明				
教職員数	教諭	4 2	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	6	実習教諭	実習講師	実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	3	計	6 3
生 徒 数	小学科		1年			2年		3年		合計		合計クラス数						
			男	女	男	女	男	女	男	女								
	普 通 科		9 6	1 2 4	8 7	1 4 2	1 0 1	1 2 1	2 8 4	3 8 7	1 8							

2 目指す学校像

スローガン『My New Story ～自らが創り出す未来～』のもと、地域に貢献できる確かな人間力を備え、実際に地域に貢献し地域を牽引できる「人財」を育成する

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	スローガン『My New Story ～自らが創り出す未来～』のもと、地域に貢献できる確かな人間力を備え、積極的に地域を牽引できる「人財」を育成する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	○目標の連鎖に留意して学習活動、特別活動、道徳教育、人権教育等を行うことにより、心身ともに健康で情操豊かな、地域に貢献できる人材を育成する。 ○新学習指導要領の着実な実施を通じて、確かな学力を身につけ、社会の変化に対応して、他者と協働して課題解決にあたることのできる資質・能力を育成する。 ○「総合的な探究の時間」を活用し、地域と連携した探究型学習の充実を図る。
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	○積極的に学習活動に取り組み、より高い学力を身につけたいと考えている生徒 ○地域の課題に興味・関心を持ち、地域社会との協働に意欲のある生徒 ○生徒会活動、部活動、ボランティア活動等に主体的に取り組む生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	基礎学力の定着度や学習意欲が不十分な生徒がおり、学力や学習意欲に差が見られる。また、学力面で伸びる力を秘めていながら、学習に対して自主性や積極性に欠ける生徒が少なくない。さらに、感染症による臨時休業や探究活動の制限がある中で、学習意欲の減退が心配である。	主体的積極的な学習態度の育成、学習意欲の維持向上のため、生徒の実態に応じた工夫した授業に努める。I C T活用や授業方法について教員相互の学びなども必要であろう。また、深い学びにつながる「総合的な探究の時間」をより充実させる。

特別活動	生徒会関係の行事（球技会・体育祭）について、可能な限り生徒主体の企画・運営を目指しているものの、リーダーとして活躍できる生徒が限られている。 部活動については、部員数が減少している部が増えており、活動内容が限られている団体が出ていることから、部の精選について検討が必要になっている。	行事・部活動ともに生徒の自主的、自発的な取組を支援するための創意工夫と共にリーダーの育成。 部活動を活発にすることで、活力ある教育活動の推進を図る。また、「キャリアパスポート」による活動の記録を蓄積し、キャリア教育に資する。
進路指導	生徒の進路希望が多方面に分かれている。大学進学希望者が多く、ほぼ進学希望を達成しているが、国立大学進学を第一志望とする者に対しての達成率は高くない。	キャリア教育の充実を図り、組織的・計画的な進路指導を通して、生徒の進路実現を推進する。
生徒指導	登下校時の自転車の乗り方や公共施設利用のマナーの注意喚起を促しているが、一部違反する者がいるのが現状である。冬季には、遅刻者延べ数がやや増加の傾向にあるが年間では延べ人数は減少している。	規範意識の高揚と規律ある生活の指導を工夫して、場に応じた的確な状況判断ができる能力を高める。
第1学年	進路目標が不明確で進路についての知識が不足している生徒が多く見られる。学習意欲や進路に関する意識等、個人差が大きい。	基本的生活習慣の確立及び基礎学力の定着を図る。部活動や学校行事を積極的に体験させることによりアセスメント「自己を見つめ」、具体的進路目標の確立を進め、学習意欲を喚起する。
第2学年	大部分の生徒が大学進学を希望しており、進路希望実現のためには更なる成績の向上を要する。積極的に進路研究をするなど、自己の判断に基づいて主体的に行動しようとする意識が必要である。	基礎学力の定着と進路指導の充実を図る。部活動、学校行事に主体的に参加することによりAct「行動を起こし」、進路目標達成のために主体的に学習に取り組む姿勢を育てる。
第3学年	大部分の生徒が大学進学を希望しており、希望進路実現に向けた意識を高めるとともに、学力向上のため、家庭学習時間の確保が必要不可欠である。部活動や行事等への取り組みに対し、生徒の主体性、積極性に差がある。	個別面談を充実させることにより、個に応じた進路指導を通して進路目標を明確にさせ、Achieve「夢を達成させる」ことができるようにする。コミュニケーション能力や規範意識の確立を図り、社会人としての資質を育む。
働き方改革	時期により勤務時間を超過しての業務にあたらざるを得ない職員が多い。また、職員による業務の偏りが見られる。	学校行事の精選や業務の効率化を図り、超過勤務時間の減少を目指す必要がある。また、部活動の在り方を見直し、運営方針を基本とした業務の遂行に取り組む。

5 中期的目標

1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、積極的なICTの活用により学力の向上を目指す
2. より高度な学問探究を目指す大学進学を推進し、国公立大学合格者数15名、難関私立大学合格者数15名を目標に、進路指導の充実を図る
3. 道徳教育、人権教育を充実し、マナーや絆、助け合うことの大切さを身につけ、よりよい人間関係を育む
4. 「総合的な探究の時間」を充実させ、地域や社会における課題を見つけ出し、原因分析や解決への方策を探究することで、地域に貢献できる人財を育成する
5. 将来の職業として教師を目指す若者が増えるよう、これまでの学校文化を見直し、働き方改革を推進する

6 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
・学習意欲の高揚と学力の向上	①積極的なＩＣＴの活用を含めた授業を推進し、主体的で対話的で深い学びの実現に向けた授業改善により学力の向上に取り組む。 ②「総合的な探究の時間」を充実させ、教科横断的な学習を通して、地域に貢献できる人財育成を図る。 ③公開授業・相互授業参観を推進し授業研究に努め、教員の資質向上を図る。 ④生徒の実態に応じた選択授業（習熟度別授業等）などを行い、教科指導の工夫・改善・充実を図る。
・生徒指導の総合的推進と「心の教育」の充実	①挨拶や清掃を励行し、生徒一人一人と向き合った指導を行う。 ②遅刻や欠席について対前年比10%減を目指し、正しい服装の励行や基本的な生活習慣の確立を図る。 ③交通安全教育を推進し、入院を伴う重大な交通事故0を目指す。 ④生徒・保護者とともに、校則の見直しを推進する。
・キャリア教育・進路指導の充実	①キャリアパスポート等の活用により、キャリア教育を充実し、社会に貢献できる高度な人材育成を目指して大学進学を推進する。 ②3年間を見据えた計画的な進路行事を実施することを通して、望ましい職業観・勤労観を育成する。 ③進路情報発信に努め、生徒のライフキャリア全体を見通した適切な進路実現を図る。
・環境教育の充実と特別活動の活性化	①学校行事や清掃美化および緑化活動を通じて奉仕の心や環境保全の意識を高める。 ②生徒会活動や部活動を通して、社会性やコミュニケーション力を高める。 ③筑西市と連携を深め、地域貢献活動を行いながら豊かな情操を養い、明るく活力ある学校づくりを推進する。 ④部活動加入率70%以上を維持することを目標とする。
・「道徳」教育の充実と「生きる力」の育成	①自己の尊厳を深く自覚するとともに、善悪を正しく判断し、自分の行動に責任を持てるよう「道徳」教育の充実を図る。 ②“下館二高3Aプラン（Assess、Act、Achieve）自分を見つめ、行動を起こし、夢を達成する”の推進体制を整備し、進路について考察する学習活動を充実することにより、自己理解を深め「生きる力」の育成を目指す。
・学校安全計画の策定と学校安全の意識の向上	①関連する教科・校務部・部活動等を含む学校安全計画の共通理解を図ることにより、安心安全な体制づくりをする。 ②学校安全委員会を年2回開催し、学校安全の状況をチェックしその改善を図る。
・働き方改革の推進	①学校行事の精選、効率的な運営を図る。 ②ＩＣＴを活用して、業務の効率化を図る。 ③部活動運営方針を遵守するとともに、部活動数・顧問数など運営の見直しを図る。